

# 事後活動ニュースFY2022



内閣府青年国際交流事業はあなたの飛躍を応援します！



## CONTENTS

### 1 内閣府青年国際交流事業 事後活動について

#### 【IYEO会員個人の活動】

- 3 難民の活躍機会を作る渡部カンコロンゴ清花さん
- 4 若者の第3の居場所づくりに邁進する白石祥和さん
- 5 内閣府青年国際交流事業既参加青年の海外派遣
- 7 【祝】令和4年秋の叙勲

#### 【都道府県IYEOの活動】

- 8 「東南アジア青年の船」青年会議
- 9 国際社会青年育成事業（地方プログラム）
- 11 青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい（ブロックイベント）報告
- 13 青少年国際交流事業事後活動推進大会  
日本青年国際交流機構第38回全国大会  
第29回青少年国際交流全国フォーラム鹿児島大会
- 14 千葉県青年国際交流機構 山形県青年国際交流機構
- 15 岐阜県青年国際交流機構 沖縄県青年国際交流機構

#### 【IYEOの活動】

- 16 IYEOキャリアデザインセミナー
- 17 IYEO未来創造会議

#### 【事後活動組織の活動】

- 18 国内の活動
- 19 海外の活動

# 内閣府青年国際交流事業 事後活動について

## 1. 事後活動とは

内閣府青年国際交流事業に参加した青年（既参加青年）には、事業に参加して得た経験をその場限りのものとせず、事業参加後の活動に結びつけ、広げていくことが期待されています。実際に、多くの既参加青年たちが、事業参加後もその属する地域や職域など社会の各分野において、事業参加によって得た知識や経験、人脈をいかして、国際交流活動や青少年育成活動などの社会貢献活動に取り組んでいます。内閣府では、事業で得た学びを広く地域社会や国際社会に還元することを目的にした社会貢献活動を「事後活動」と呼び、既参加青年の活動を支援しています。

## 2. 事後活動を支える日本青年国際交流機構 (IYEO) と世界的な人的ネットワーク

日本青年国際交流機構 (IYEO: International Youth Exchange Organization of Japan) は、この「事後活動」に取り組む既参加青年の全国的組織として、1985年に設立されました。2022年度は「共生社会の実現に向けて、生きる力を発揮しよう」をその活動方針とし、全国に支部を置きながら地域に根差した国際交流活動や青少年育成活動、大規模災害への支援など、その豊富な人材とネットワークを駆使して、内閣府と連携しながら様々な活動に継続的に取り組んでいます。

また、海外においても、40を超える国々で外国参加青年の事後活動組織が設立され、各国独自の社会貢献活動が行われています。こうした事後活動を支えるネットワークの下、既参加青年は、同じ関心を持った青年と世代、地域、国を超えてつながることができるほか、IYEO自主活動サポート助成金制度（チャレンジファンド）等を活用するなどし、熱意やアイデア次第で取り組みたい活動をすることができます。

なお、これら事後活動組織による活動はもちろんのこと、既参加青年一人一人が自身の社会活動などにおいて、事業参加によって得たものをそれぞれのやり方で社会に還元することもまた「事後活動」です。



## 3. 内閣府青年国際交流事業 事後活動ニュースFY2022

本事後活動ニュースFY2022は、既参加青年が各々の住む地域や職域等で取り組んだ事後活動の一部を主に紹介します。

### (1) IYEO会員個人の活動

本事業の参加によって得られた経験や学びを自身のキャリア形成にいかし、現在、国際協力活動やビジネスの第一線で活躍している既参加青年をはじめ、各国政府や国際機関などの要請に基づき、IYEOの推薦により国際会議やフォーラムに参加した既参加青年たちを紹介します。



### (2) 都道府県IYEOの活動

都道府県IYEOでは、各地域で次世代の人材育成、地域の国際交流及び国際親善の促進のための様々な活動を行っています。

今年度の活動の中から、内閣府青年国際交流事業における地方プログラムと推進大会（グローバル・ユース・リーダーズ・サミット）及び全国8ブロックで行われたブロックイベント（青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい）の取組を紹介します。



### (3) IYEOの活動

IYEO会員は、各地域、職域、学校、青少年団体等で様々な活動を行っています。IYEO会員が自主的にチームを結成し、IYEOキャリアデザインセミナーやチャレンジファンド、育成ファンドなどの活動をしている事例と、2021年にこれからのIYEO活動のあるべき姿を提言するため創設された「IYEO未来創造会議」を紹介します。



### (4) 事後活動組織の活動

「国際社会青年育成事業」と「地域コアリーダープログラム」の既参加青年が合同で開催したイベント、中国派遣団同窓会、「東南アジア青年の船」事業、「世界青年の船」事業、それぞれの国内の活動に加え、約60年の長い歴史の中で培われた世界的な人的ネットワークを持つ「東南アジア青年の船」事後活動組織（SSEAYP International）の海外での活動について紹介します。



## 難民の活躍機会を作る 渡部カンコロンゴ清花さん



渡部カンコロンゴ清花さん

NPO法人WELgee代表理事  
2011年 第24回「世界青年の船」事業

### 「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会の実現」

日本に逃れてきた多国籍な人々とともに「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会」の実現を目指してNPO法人WELgeeを立ち上げ、日本に逃れる難民申請者のエンパワメントに関わる活動をしている渡部さんは、大学1年生、19歳の時に「世界青年の船」事業に参加しました。「船」という閉ざされた空間は、良い意味で、逃げることができず、徹底的に他人と向き合い、自分と向き合う必要があります。うまくいかないことが出てきた時に、初めて、今自分が、これまでの自分のcomfort zoneから出ようとしていることに気が付いたと語っています。

「世界青年の船」事業を含め、その後のいろいろな経験が数珠つなぎのようにつながって行って、現在の自分があると言う渡部さん。何か難しい状況に直面して、自分の価値観が問われたり、自分の未熟さと対峙しなければいけなくなったりすると「そういえば、昔あんな経験をしたことがあった」と過去の経験という「工具箱」の中から必要なものを取り出します。もし、19歳の時に船に乗っていなかったら、今、取り出せる道具がもっと少なかっただろうと思うとのこと。

### 難民の人々も歓迎できる社会を作ろう！

2016年、今では良き友人たちである難民に出会ったことをきっかけとして、WELgeeを設立しました。WelcomeとRefugeeを組み合わせて作った団体名です。難民という背景や境遇を乗り越えて、自分で未来を選び、日本に降り立った同世代の人々から勇気もらい、夢に感動し、一緒に何かしたいと感じたことが原動力となっています。

難民の人々は日本に来るまでは、それぞれの国で活躍してい

た人も多く、実際、WELgeeが出会った約半数以上が大学や大学院を卒業しています。こうした人々を貴重な「人材」と見なし、日本企業に就職してもらうことで、長期の在留資格が得られるよう2017年から就労支援を始めました。2022年7月までで19人が企業に採用されています。社員になった人は、勤務先が申請して、在留資格が「特定活動」から「技術・人文知識・国際業務」に変更されれば、難民認定を受けなくても日本で安定して暮らすことが可能になります。これまでに6人の在留資格が変更されました。



困難な状況を乗り越えてきた彼らが描く夢やビジョンを新しい故郷である日本で実現できるように。そして、彼らが日本社会で輝くヒーローとして、また、いつか平和と再建に向かう自国のリーダーとして、共に平和で、寛大な世界を築いていく。そんな社会を目指します。

渡部さんのインタビュー記事はこちら →



# 若者の第3の居場所づくりに邁進する 白石祥和さん



白石祥和さん

特定非営利活動法人With優 代表  
2012年 第11回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」  
(青少年分野、ドイツ派遣)

## 学校に行けない子供たちのための学校を作ろう!

消防士になるという夢がかなわず、挫折を味わったという白石祥和さんは、同級生が自死し、残された家族が隣町にひっそりと引越していくのを見て、「一緒にがんばろう」と言ってくれる、寄り添ってくれる人が一人でもいたら、違った結果になったのではないかと考えます。当時、学校に適應できない子供たちを支える仕事をしてきた白石さんは、学校に行けない子供たちのための学校を作ろうと思ひ立ち、25歳の春、仕事を辞め、自作のチラシを手に7000軒のお宅をたった一人で戸別訪問して協力者を募ります。やがて、11名の方の賛同を得て、任意団体「With優」を立ち上げます。

## 国際交流事業に参加して得たもの

6年後、白石さんは第11回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」に参加し、ドイツを訪問することになります。学校に行けない子供たちのフリースクールから始め、子供たちで運営するカフェレストランや若年無業者の就労支援事業に取り組むなど、事業は拡大していましたが、今後さらに発展させるために、全国・世界とつがる必要性があると感じたこと、何より自分自身が一度立ち止まる機会がほしいと思ったのが大きな理由でした。ドイツ訪問を通じ、最大の目標であった中間的な就労の場を立ち上げるためのヒントを得、プログラム参加後もつながり続けられる全国の同志ができたことは大きな成果でした。

## 安心して家出できる場をつくる

令和4年10月には、米沢市内に「ひきこもり等の若者が安心して家出できる第2の家」がオープン。これまで様々な課題を抱えた子どもや若者とかがかわる中で、家庭の中は見えづらく、学校に行けない、仕事に就くことができない、そのことがきっかけで家族とのかかわり方も変わり、本来であれば安心できる家庭の中にさえ居場所がない子どもや若者もいることが分かってきました。家族もどのかかわったらいいか分からないと感じているケースもあり、家族とも少し離れる時間を持って、安心して家出できる場所があったらいいのではないかと考えました。

そこで、クラウドファンディングを活用して活動資金を準備し、一軒家を借りて新たな活動を展開。就労支援においても「お金がなくて車の免許が取れないし、車を買えない…」「自信がなくて一人暮らしに踏み出せない…」「自分のことを知らない場所で挑戦してみたい」というような課題やニーズもあり、新たな挑戦を進めているところです。

様々な事情で短期間家を離れてみたい子どもや若者、その家族を応援するため、市街地からアクセスの良い場所に購入する一軒家



白石さんのインタビュー記事はこちら →



# 内閣府青年国際交流事業 既参加青年の海外派遣

## 1. International Conference on Cohesive Society (ICCS 2022)

2022年9月6日～9月8日の3日間にわたり、「ICCS2022」がシンガポールにて開催され、「ポストコロナ社会における包摂」をテーマに議論がなされました。ASEAN事務局を通じてシンガポール政府より、日本代表者の推薦依頼があり、日本青年国際交流機構より、佐竹優輝さんが出席しました。



佐竹優輝さん

2016年 第2回次世代グローバルリーダー事業  
「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」

### シンガポールからの学び

3年ぶりの海外となった今回の滞在。コロナ禍を経た世界と対峙する機会をようやく得られたことは極めて大きな収穫でした。特に今回は、「日本がアジアの中でどのような立ち位置へと駒を進めたのか」を把握する貴重な機会となりました。この点、ハード面とソフト面で存在感に大きな乖離があることが大きな発見でした。ハード面においては、製造業の進出は力強い印象を残した一方、ソフト面においてはシンガポールとの大きな「差分」を実感しました。この3日間での経験から、この「差分」は、①国を挙げた「多様性」への迎合と、②「若さ」からくるみなぎる自信にあるのではないかと考えに至りました。

こうした中で、改めて、「日本が負うべき役割は何か、あるとすればどのようなことか。」「国際社会、特にG7の一極として、アジアを代表する国家としてどうあるべきか。」、今一度真摯に考え、向き合い、前進する必要があります。我が国固有の特性をどう他のアジア諸国と外交関係の中で確立し、国家間関係の進化を図るべきなのかとい

う非常に大きな問いを得ることができました。

今回、日本代表者として議論に参加させていただいたことで、あらためて自身の今後の進むべき道が明確になったと感じています。カンファレンスにおいて遭遇したシンガポールやアジア各国の若者たちの中からは、「近いうちに政治の道に進み、得た経験を共有する機会を持ちたい」といった発言も数多く聞かれ、いわば政治のリレーが行われている状況を目の当たりにしました。日本においても、県や市町村といった地域レベルで、ICCSと同規模あるいはよりコンパクトな形で「多様性」を名実ともに体験・思考する場面と、議論の場を市民に対して提供できる場の実現が急務であり、その実現に向けて取り組みたいとの思いを強く持ちました。このシンガポールでの経験は、私自身、この熱意をバトンに替え、次世代に託す役割を担いたいとの決意を新たにする機会となりました。今後、その実現に向けて取り組んでいきたいと思います。

最後に、シンガポールが国家の威信をかけて開催した本イベントの閉会に際し、次期首相がおっしゃった「脆弱性とは何かを監視し、対話し、すくい取る」というアドバイスを紹介したいと思います。この箴言は、我が国の将来に対する一つの大きな警鐘として胸に刻みたいです。

## 2. ASEAN Plus Youth Volunteer Forum

2022年8月24日～8月26日の3日間にわたり、ベトナム政府が主催する「ASEAN Plus Youth Volunteer Forum」が開催されました。本フォーラムは、ASEAN、中国、韓国、日本、インドの間で青年ボランティア協力のつながりや仕組みを作ることを目的として開催され、青年のボランティア活動において最も貢献した個人及び団体を表彰しています。日本青年国際交流機構からは、地域コアリーダープログラム既参加青年の岩岡ひとみさんが代表を務める「NPO ふくりび」を推薦し、「ASEAN PLUS YOUTH VOLUNTEER AWARD2022」を受賞しました。



岩岡ひとみさん

2009年 第8回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」(高齢者分野、英国)

### 受賞者岩岡ひとみさんのコメント

内閣府青年国際交流事業の既参加青年として、IYEOにご推薦いただき、名誉ある賞を受賞できましたこと、関係者の皆さまに心より感謝致しております。

NPOとして16年、赤木のボランティア開始からは実に38年にわたる地域での地道な活動が今に繋がっています。

ベトナム、ラオス、ブルネイ、フィリピン、ミャンマー、タイ、カンボジア、シンガポール、マレーシア、インドネシア、そして日本の青年たちから世の中をよりよくしたい、そのために自分に何ができるのかという熱い想いをたくさん聞いて、改めて私も、NPOを始めた27歳の頃の想いを取り戻すことができた数日間でした。

日本が直面している高齢化の問題は近いうちにASEAN諸国にとって非常に深刻で複雑な形で現れてきます。年を重ねてもその人らしく尊厳を持って生きていける社会を目指していく今の日本の取組が、世界の課題解決のヒントになるように、トライ&エラーを重ねていきたいと考えています。

## 3. E-ASEANユース・ボランティア・プログラム (e-AYVP) タイ2022

2022年6月27日～7月8日の10日間にわたり、「E-ASEANユース・ボランティア・プログラム (e-AYVP) タイ2022」が開催されました。AYVPIは、マレーシア青少年省の支援により実施している10年目を迎えるプログラムで、今年度は、「コミュニティ開発と貧困撲滅」をテーマにASEAN+3 (日本、中国、韓国) の青年が参加し、オンラインにより実施されました。日本青年国際交流機構からは、2021年度「世界青年の船」事業 (オンライン) 既参加青年の木村ひなたさんが日本から唯一の参加者として参加しました。

### プログラムの参加から得た学び

Webinarの内容は主に、コミュニティ開発と貧困撲滅というテーマに基づいて講義が行われたのですが、特に印象に残ったのはボランティア活動に従事している5人の方々のお話です。特に、タイの大学教授と孤児院でボランティア活動をする女性のお話は衝撃的でした。タイの教授は、かなり貧しい環境で育ち、大学に進学するための資金がありませんでしたが、教授のお母さんが所有するお米の畑の半分を売り払って大学入学の資金に充ててくれたそうです。だからこそ、今の教授という地位があるという座学でしか聞いたことがないようなお話を、体験談として知り、衝撃を受けました。

一方、孤児院でボランティア活動をする女性は、ご自身が孤児であったときのことを話してくださいました。毎年世界中の学生がボランティアとして孤児院にやって来るのですが、彼らの活動は自己満足にしか思えなかったそうです。学生たちは短期間孤児院を訪問し、孤児と写真を撮ってSNSにアップしてボランティア活動をした気になっているように見え、あまり良い気分ではなかったとのこと。そのため、ボランティアの学生とは真の関係を築くことができなかったそうです。この体験を踏まえ、現在行っている孤児院へのボランティア活動では心と心がつながり合えるような支援をしていると話しておられました。

自分が今まで何不自由なく育ってきたことを客観的に見ることができ、ふつうに暮らしては知りえない環境を知ることは重要であると感じました。そのために、興味本位から始まったボランティア活動だとしても、心と心がつながり合えるようなボランティア活動をしていくための方法を探していかなくてはならないと思いました。また、お話をしてくださったタイの教授は、孤児院で育ち、周りはほとんど進学などしない環境にいても、大学を卒業されました。こういった厳しい状況にありながらも、勉学に励み、自分のスキルを磨くことに注力した女性の「弱みこそ大きな強みになる」という言葉にとっても感動しました。



木村ひなたさん

2021年「世界青年の船」  
(オンライン)

## 【IYEO会員個人の活動】【祝】令和4年秋の叙勲

令和4年秋の叙勲において第4回「東南アジア青年の船」事業のタイ既参加青年であるチャイ・ニマコーン (Mr. Chai Nimakorn) 氏と、第6回「世界青年の船」事業のインドの既参加青年であるラヴィ・チョプラ (Mr. Ravi Chopra) 氏が、日本とタイ・インドを始めとするASEAN・世界各国との青年交流及び友好親善に寄与した功労を讃えられ、旭日双光章を受章されました。

旭日双光章受章を受賞した既参加青年は、「東南アジア青年の船」事業参加者からは合計4名、「世界青年の船」事業参加者からは初の受賞となりました。

チャイ・ニマコーン氏は、1977年の第4回「東南アジア青年の船」事業にタイ参加青年として参加した後、タイの事後活動組織であるタイ「東南アジア青年の船」連盟 (以下、「ASSEAY Thailand」という。) において2001年から2012年まで会長として約11年間、日本とASEANとの友好交流活動に尽力しました。特に、強いリーダーシップの下、ASSEAY Thailandは、2001年にはバンコクで、2010年にはアユタヤでSSEAYPインターナショナル総会 (SIGA) を主催しました。

また、ASSEAY Thailandの運営において、特にスポーツ分野での幅広い交流に関し、実質的なサポートを含め、日タイ間及び日ASEAN間の相互理解促進のためにさまざまな貢献を行ってきました。具体的には、在タイ日本国大使館と連携し、バンコクの日本人コミュニティと一緒に日本青少年キャンプ、ASEAN-日本スポーツ大会等のイベントを企画・運営 (活動費はASSEAY Thailandが負担) することで、日本とタイ及びASEAN

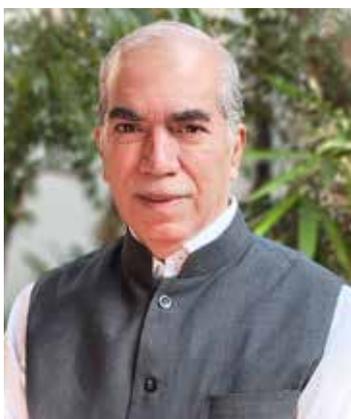


との友好交流の発展に貢献されています。

チャイ氏は、長年にわたる日本・タイ間及び世界各国との青年交流の促進に寄与した実績が認められ、2007年にはSSEAYPインターナショナル賞 (SSEAYP International Award) を受賞。また、2010年に小寺駐タイ日本国大使からチャイ氏率いるASSEAY Thailandに対して、在外公館長表彰を授与されました。



チャイ・ニマコーン氏  
1977年 第4回「東南アジア青年の船」事業



ラヴィ・チョプラ氏

1993年度 第6回「世界青年の船」事業

ラヴィ・チョプラ氏は、1993年度に第6回「世界青年の船」事業にインド参加青年として参加した後、2007年にインドの事後活動組織であるSWYAA-Indiaの設立に主導的な役割を果たし、同年に事務局長に就任、2016年より会長代理、2018年より正式に会長に就任し、現在に至っています。

2014年9月に日印両国首脳間で「日インド特別戦略的グローバル・パートナーシップのための東京宣言」が発表されたことを受け、日印関係のさらなる発展に向け、ディスカバー・インドクラブ (DIC) のインド側パートナーとして、ディスカバー・ジャパンプラブ (DJC) を創設し、「コンニチハ・ジャパンプレステイバル」をニューデリーで開催するなど文化交流活動の促進に努めました。

また、日本からの学生のインドにおけるスタディツアーの受入れや、日本でのマハトマ・ガンディー生誕150周年講演開催への協力など、青年育成の促進につながる

企画・運営に携わり、「世界青年の船」事業を核として多角的に日本とインドとの友好交流促進に貢献しています。



# 【都道府県IYEOの活動】「東南アジア青年の船」青年会議

令和4年度「東南アジア青年の船」青年会議は、日本代表青年及びASEAN10か国の代表青年の計約300名の参加の下、「東南アジア青年の船」事業の特長を生かしながら、ディスカッション活動を中心として、オンライン形式で計6日間のプログラムが実施されました。

ディスカッション活動は、「日本ASEAN友好協力50周年を迎える新たな協力の時代に、青年ができること」をテーマに、9つの分野（教育、災害と防災、起業（NPO／NGO含む）、健康とウェルビーイング（メンタルヘルス含む）、情報とメディア、日本及びASEANの経済、貧困と格差、環境保護、ソフトパワーと青年の民間外交ごと）にディスカッションを行いました。その他、深作光輝ヘスス氏（2005年「世界青年の船」事業既参加青年、2019年「東南アジア青年の船」事業／2020年「東南アジア青年の船」未来会議 ファシリテーター）による基調講演の後、参加青年が自主的に企画・運営するピア・ラーニングセッション、oViceを活用したメタバース（仮想空間）での参加青年同士の自由な交流セッションなどが行われました。

また、初の試みとなるオンラインによる地方プログラムが愛知県・島根県・熊本県で行われ、日本代表青年、ASEAN10か国の代表青年と地方参加青年との交流も行われました。

本ページでは、12月11日に実施された地方プログラムについて報告します。

地方プログラムの企画・運営には、4か月にわたって、各県の既参加青年たちに実行委員として尽力いただきました。参加青年たちが日本の地方文化を知る機会になっただけでなく、各県の地方参加青年にとっても将来の内閣府の青年国際交流事業への参加を志すきっかけとなりました。



既参加青年である深作光輝ヘスス氏による基調講演

## ■愛知県

愛知県では、「食文化から考える地球の未来」をテーマに、愛知の名産品である八丁味噌や抹茶などの生産工程を紹介した後に、小グループに分かれて、愛知県の事例から感じた気づき、食文化等の伝統を後世に残していくために若者ができることを話し合いました。



## ■島根県

島根県では、「各国の学生や若者の日常生活について」をテーマに、地域活動、身に付けておきたいスキル、環境問題に向けた活動、社会課題などを小グループで話し合いました。



## ■熊本県

熊本県では、「日本の民謡踊りの源流 牛深ハイヤをみんなで踊ろう!」をテーマに、小グループに分かれて振付を覚えた後、全員で踊り、熊本の伝統芸能に関する知見を深めました。



# 【都道府県IYEOの活動】 国際社会青年育成事業（地方プログラム）

令和4年度国際社会青年育成事業は、4か国（エストニア、ドイツ、ドミニカ共和国、メキシコ）の代表青年32名と日本代表青年13名がオンライン交流と対面交流によるマルチ・ケース・スタディを行いました。本事業では、「ITの活用」と「災害対策」をテーマに据え、各テーマのディスカッションや施設訪問を通じて、様々な学びを得るとともに交流を持ちました。さらに、プログラムの後半には、新潟県（災害対策）、香川県（ITの活用）において、地方プログラムを実施し、更なる学びと交流を深める機会が提供されました。本ページでは、12月12～15日に実施された地方プログラムについて報告します。

## ■新潟県

約3年ぶりに外国参加青年が来日して実施された「国際社会青年育成事業（INDEX）」では、「災害対策」という事業テーマのもと、新潟県で4日間の地方プログラムを行いました。

大小様々な災害が度々発生する災害大国・日本ですが、今回は特に「水害」に焦点を当て内容構成をしました。新潟は大河の恩恵をたくさん受けてきた反面、水害に悩まされてきた歴史があります。また、近年の気候変動の影響で、水害はどの国でも起こりうる身近な災害の一つになりました。このような背景を踏まえ、過去に新潟で発生した水害の事例や具体的な対策への学びを通し、参加青年たちが各々の興味や専門分野と関連付けて、「水害」「災害」をより自分事としてとらえ、知見を深められるようなプログラム構成を目指しました。また、参加青年たちへ活動の意図を明確に分かりやすく伝えるという意図のもと、プログラムの順番を水害・災害発生の時系列順に組み立てるよう工夫しました。

### 見学① 大河津資料館（写真1）

→新潟の水害の被害・対策(大河津分水)の歴史  
堰による治水で水害を「起こさない」「防ぐ」対策



写真1

### 見学② 三条市水防学習館（写真2）

→近年の水害発生前後の状況を知る、身近な防災を知る  
水害「発生時」に身を守る対策



写真2

### 講義① 災害ボランティアマネジメントを行うNPO団体（写真3）

→災害ボランティアの短・中・長期的な支援の視点  
災害「発生後」に世代・性別を越えて欠かせないソフト面での対策

### 講義② 医学部災害医療教育センター

→医学的側面から捉える災害への備えと防災  
過去の教訓をいかした災害「発生後」の医療体制と「平時」の対策の重要性



写真3

今回で協力いただいた皆さまとのご縁を大切に、今後の新潟県IYEOの活動にいかしていきたいです。コロナ禍以降初めての対面形式での事業、地方プログラムのトップバッターと、かなり挑戦的な取組みとなりましたが、積極的に活動に取り組む参加青年たちの姿や、新潟の街を楽しむ笑顔を見ることができ、悩みながらも懸命に準備した甲斐があったと心から感じました。そして何より、人と人が直接会い、顔を見ながら対話し、お互いを知り理解し合うことのすばらしさを改めて実感しました。どれほどオンライン技術が進化しても、人と人の直接的な交流から生まれるエネルギーに勝るものはなさそうです。これから本格化する対面事業の再開が非常に待ち遠しいです。

## ■香川県

香川県青年国際交流機構にとって、3年ぶりの対面での地方プログラムの受入れとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響下でのプログラムは、参加青年に加えて、関係者全員の安全に配慮する必要がありました。そのため、これまでとは違った視点でプログラムを構築しました。

まず、当県でのプログラムでは、地元の小学校への訪問にも重点を置いています。通常は、なかなか見ることができない日本の小学校での日常は、特に外国青年に人気があります。体育館での生徒たちとの交流、授業の参観、給食、昼休みといった内容が主なものですが、参加青年が生徒たちと自由に接する機会があるのが、給食と昼休みになります。例年この時間が一番温かい交流となるのですが、感染対策のため、給食だけは別室に用意しました。ただし、配膳などの準備を率先して生徒たちがやっている様子を見学してもらいました。昼休みは、互いにマスクの着用を徹底したうえで、主として校庭で一緒に遊ぶ機会を設けました。参加青年たちの手を、恥ずかしそうにしながら引いていく生徒たちと、引かれている参加青年たちを見てると、互いに愛情と興奮に満ちた表情をしており、何とも微笑ましい気分になりました。

次に毎回の食事にも注意が必要でした。本プログラムでマスクを外す機会は、基本的には食事の際のみとなります。各種の感染症が飛沫感染を主たる経路としている以上、食事の際の会話は感染症の拡大を生じさせる危険性の高い行為と言えます。しかし、食事中の交流も交流事業の醍醐味の一つです。そこでルールとして予め決められていたのは、食事中でも言葉を発する際には、マスクを着



香川県知事表敬訪問



香川県の特別名勝である栗林公園を訪れ、和船を体験



高松市立浅野小学校を訪問し、生徒が再現した地元の奇祭『ひょうげ祭り』に加わる外国参加青年

用するという事でした。不便とはいえ、互いの安全のため、参加青年は全員が協力して厳しくマスクの着用に留意していました。また消毒についても同様です。機会ごとに協力を求め、参加青年たちの手指消毒にも努めました。一部の青年の指が荒れて赤切れしているのを目撃し辛い思いもさせてしまったかなと感じましたが、不満を言うことなく、こちらにも全員が積極的に協力してくれていたことがありがたかったです。

この3年間で、地方都市である香川県では、以前のように外国人を街中で見かける機会が減りました。もともと都会に比べて外国人と接する機会が少ない香川県の青少年にとって、外国青年と直に交流できるこの地方プログラムは大変貴重な機会となっています。これからもこのプログラムが続けられることを切に希望しています。

# 青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい(ブロックイベント) 報告

内閣府、地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業に参加した者や、国際交流に関心のある青少年等が、社会活動に取り組むために必要な知識と意欲を高め、情報交換を行い、国際社会や地域社会への貢献を考えるためのつどいです。それぞれの活動を通じて、次世代の人材育成、地域の国際交流や国際親善の促進に寄与することを目的としています。このブロックイベントは、内閣府青年国際交流事業に参加した後の青年の事後活動研修を兼ねています。各地域で令和4年度に行われたイベントを以下に紹介します。

## ■四国ブロック(愛媛県IYEO)

日時	令和4年8月20日(土) 13:00~17:00	
会場名	オンライン (Zoom)	
参加者数	51名	
実行委員長	芝 育生	
テーマ	「地域を好きになるために、必要なこと〜みんなの〇〇したいを実現するために〜」	
基調講演等	「ワクワクするような企てが生まれるヒミツキチ コダテルから」 登壇者：濱田 規史 氏	
イベントから得られる学び	社会貢献をするには、その地域に愛着を持つことが、モチベーション維持のために必要であり、そこに関わる人達も、活動を通して自己実現(「みんなの〇〇したい」を叶える)ができれば、その活動が持続可能となり地域全体の活性化につながると考える。地域のさまざまな人たちがしたいことを実現する活動を通じて、更に地域を好きになった人たちがまちを活性化させた事例となる「コダテル」の設立者の基調講演を通して、参加者がそれぞれの学びを、自分が所属するコミュニティで活かしていくことを目的とした。	

## ■中国ブロック(岡山青年国際交流会)

日時	令和4年9月4日(日) 13:00~16:00	
会場名	ハイブリッド(会場：岡山国際交流センター 8階イベントホール)	
参加者数	102名	
実行委員長	三宅 香菜子	
テーマ	「多様性×自分について語り合おう! 〜キラキラ未来のためにギャーギャーしようや〜」	
基調講演等	身近なゲストスピーカーによるピッチ	
イベントから得られる学び	持続可能な開発目標(SDGs)のベースにある考えは「多様性の尊重」である。暮らしの中で多様性の尊重を実践するために、第1部では、ゲストスピーカーによるピッチを通じて、多様性が身近なものであることを感じてもらった。多様な生き方を知って、「社会の中に居場所がある」「自分らしく生きていい」という安心感が得られた。次に、第2部のグループディスカッションでは、参加者が自身の経験を振り返り、多様性について意見交換した。自分を肯定的に捉えたり、違いを認め合ったりする大切さを「自分ごと」として感じてもらった。最後に、参加者一人一人の「行動宣言」と、全体で「多様性を認め合える未来像」を描き、明日からの行動につなげていくことをねらった。	

## ■北信越ブロック (富山県IYEO)

日時	令和4年10月2日(日) 9:30-17:15	
会場名	ハイブリッド(会場:星槎国際高等学校富山学習センター)	
参加者数	70名	
実行委員長	飯田 良智	
テーマ	「未来デザイン～わくわくする未来をみんなでつくらんまいけ!」	
基調講演等	「未来創造!富山を世界に誇る都市へ 『世界一美しい村づくり』と『多世代型インターナショナルスクール構想』」 講師:前田薬品工業株式会社社長 前田大介氏	
イベントから得られる学び	「未来デザイン」とは自分たちの望む未来を起点に現在をとらえ、人々の考えや意見を集める民主的な実践手段のこと。また、デザイン思考を活用して、人と社会と地球をより良い場所にしていこうという意図に基づいた取り組みであり方法論のこと。今回のブロックイベントでは、IYEOが強みとする「国際交流」を活かし、それを「社会貢献」へとつなげるため、「未来デザイン」という手法で、どのような未来を想像し、そして「創造」していくのか?を考える機会とした。	

## ■北海道・東北ブロック (北海道IYEO)

日時	令和4年11月5日(土) 14:00-18:00、6日(日) 9:00-11:00	
会場名	ハイブリッド(会場:厚南会館)	
参加者数	55名	
実行委員長	宇多 嶺	
テーマ	「あつまのまちおこし ～北海道厚真町の魅力を生かすChallengers～」	
基調講演等	「厚真町のまちおこしの秘密」 講師:厚真町役場産業経済課主幹 宮久史氏/ローカルデザイン・プロデューサー 田中克幸氏	
イベントから得られる学び	多くの地方都市で人口減少が叫ばれる中、「地域の魅力をいかに向上させるか」「移住者がいかに定住するか」は、地方における地域活性化の重要な課題である。その中で、「人口の1%が、3年間で新たに移住してくる町」北海道厚真町では、地域の外から新しい知見を持つ意欲的な人々が集い、町に新たな活気が生み出され続けている。なぜ、この町に「人が人を呼ぶ」空気が生まれるのか。そして、意欲あるチャレンジャーが厚真に「アツまる」理由とは何か。本大会では、この町に移住し、様々な分野で挑戦を続ける方々から活動のリアルを伺い、「人が人を呼ぶ」この町の本質に迫った。	

## ■関東ブロック (栃木県IYEO)

日時	令和4年11月26日(日) 12:30-17:00	
会場名	ハイブリッド(会場:とちぎ国際交流センター)	
参加者数	52名	
実行委員長	池澤 真帆	
テーマ	「明日から実践できる地域共生について考えよう」	
基調講演等	「サーバントリーダーとしての生き方」 講師:学校法人アジア学院校長 荒川朋子氏	
イベントから得られる学び	地域のボランティア団体が、持続的な活動をしていくためには何が必要なのか、自分が関わっているチームがうまくやっていくためのヒントが本講演を通して得られた。特に、基調講演者が所属される学校法人アジア学院は、団体の理念とチームビルディング、持続可能なコミュニティづくり、若手の人材育成と、いずれもIYEOが直面している課題をうまくクリアしている参考にするべき組織である。その実践事例を通し、それぞれの組織を振り返る貴重な機会となった。	

# 青少年国際交流事業事後活動推進大会

【都道府県IYEOの活動】

## 日本青年国際交流機構第38回全国大会

### 第29回青少年国際交流全国フォーラム鹿児島大会

2022年12月3日、オンラインにて日本青年国際交流機構第38回全国大会を開催しました。Glocal Youth Leaders Summit (GYLS) とリニューアルし、初めて実施された大会となりました。日本全国各地、また海外から含め100名を超える多くの方が参加しました。

本大会は「鹿児島から未来へ。“ワクワク”から踏み出す私の第一歩」をテーマとしました。地方の青年にとって、選択肢があることを知ることは非常に重要なことです。現代では、場所にかかわらずインターネットで数多くの情報を入手できますが、自分の興味分野に関するネットワークやコミュニティを直接知っているかどうか情報が質を左右します。

また、世界を舞台に活躍する方や社会貢献活動をする方など身近にロールモデルとなるような存在が見つげにくいために、目指したい目標や人物像に気付かない・触れる機会がないのも地方の課題であると考えられます。

GYLSでは、多くの活動家の話を聞き、ロールモデルとなる人と出会って、そういう方たちがどのような動機とパッションをもって地域やそれぞれのコミュニティで活動しているかを理解する機会となりました。同世代や幅広い世代の人たちと意見交換をすることで、参加者が自分自身の興味分野に気づき、出会い、選択肢を知ることによって自分の世界が広がったと思います。

内閣府青年国際交流事業の既参加青年にとっては、同事業の参加経験を活かし、未来を担う青年をリードすることにより、自身がグローバルリーダー\*のロールモデルとして青年たちと接することによる成長と自覚を育む機会となることが期待されています。

メインターゲットとする中・高・大学生にとって、自分の興味分野が何なのか、その分野で活躍している人がどうしているかを学んできたのか、興味分野についてもっと深く学ぶにはどうすればよいのか、どのような選択肢があるのかを知る・考えるきっかけ作りの場となりました。今日からできるアクションを自分自身と他の参加者などへ宣言することにより、このイベントをきっかけに一步踏み出すことを後押ししてきたのではないかと考えています。



#### ■スケジュール

13:00-13:15	第1部 開会式
13:15-13:25	チェックイン
13:25-14:00	基調講演「ワクワクすることだけ、やればいい!」 講師：奥田浩美氏 (株式会社ウィズグループ 代表取締役)
14:00-14:10	質疑応答
14:10-14:55	パネルディスカッション テーマ：「私が踏み出した一歩と、これから描く未来」 パネラー：三木アリッサ氏 (Cashi Cake inc. CEO) 矢澤麻里子氏 (Yazawa Ventures代表パートナー) 園翔太氏 (2019年度「東南アジア青年の船」事業)

14:55-15:10	全体報告
15:10-15:15	第1部 閉会式
15:15-15:25	休憩
15:25-15:30	第2部 開会式
15:30-16:10	スーパーパワー・ワークショップ
16:10-17:00	アイデアシェア/チェックアウト
17:00-17:15	第2部 閉会式

\*グローバルリーダーとは：10代~30代、自分の周りも世界も身近に感じて考えようと試みる、地域視点で、世界にアクションを起こすリーダー、具体的な行動を起こすことができる人、地域に貢献する人材、周囲を巻き込む、想像力をもつ、発信・表現することができる人材

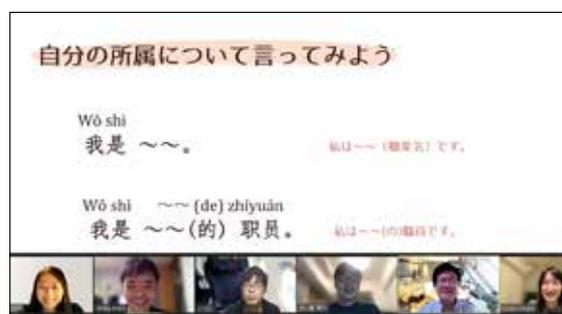
# 千葉県青年国際交流機構 山形県青年国際交流機構

## 千葉県IYEO オンライン中国語講座

この講座を開催するきっかけとなったのは、コロナで対面イベントができないことでした。そんな中、何かできないかと考え、中国語が堪能な千葉県IYEO会員が講師を快く引き受けてくれて開催できたのがこのオンライン中国語講座でした。

実は2021年度にも北海道IYEOと共催したのですが、その時参加できなかった千葉県IYEOの会員からやってみようという声があり、2022年には千葉県IYEO会員で講師1名、生徒5名で開催しました。初級者向けとして発音から学び、参加者の名前や職業を中国語で自己紹介するとどうなるのかなど、実践に即した内容で丁寧に指導してもらえ、感染を気にすることなく発音練習ができました。みんなで一緒に中国語を楽しめたのがとてもよかったです。

IYEO会員は皆さんそれぞれ多様なバックグラウンドを持ったメンバーが集まっているので、お互い刺激を受けて新しいことを楽しめる環境があり、今回のようにやってみようという声をあげられる気軽さもあります。これから内閣府青年国際交流事業に参加される皆さんと一緒に事後活動ができる日を楽しみにしています。



## 山形県IYEO 留学生と親子の和菓子づくりを通じた英会話の実践と異文化交流

令和4年7月9日(土)、山形市の老舗和菓子店「佐藤屋」において「留学生と親子の和菓子づくりを通じた英会話の実践と異文化交流」を実施し、山形大学留学生等や山形県内で英会話を学んでいる子供たちを中心とした親子25名が参加しました。

参加者は、和菓子店「佐藤屋」で和菓子作りに挑戦。留学生は和菓子作りを通して、日本文化・歴史に触れることができ、子供たちは、和菓子作りの過程を英語やジェスチャーでパートナーの留学生に伝え、学んできた英会話を実践する機会となりました。和菓子を作るという共通の活動を通して、留学生と小学生が自然に協力し合い、和やかな交流の場となりました。



### 参加者の感想

子供たちはパートナーの留学生に一生懸命英語で説明し、留学生も耳を傾けてくれました。こうやって、「名前は聞いたことがあるけれど知らない国」から、「友だちのいる国」というように心に刻まれていくのだろうなと思いました。混沌とした世界でも、「あの国嫌い」で終わるのではなく、その国の個人に目を向けて、その人たちに想いを寄せられる人へと成長してくれることを期待しています。

# 岐阜県青年国際交流機構 沖縄県青年国際交流機構

## 岐阜県IYEO 多文化共生セミナー

岐阜県IYEOでは2022年9月10日(土)、10月29日(土)に「多文化共生セミナー」を開催しました。今春、日本語教員になった友人が、外国にルーツのある児童たちと日々奮闘していると聞き、何か応援したいと思ったことがきっかけです。岐阜県による多文化共生の施策は具体的に進みつつあるものの、外国人住民の増加とともに対応できる地域や国籍には偏りも見られます。

そこで、今すでにある地域資源を使って、一時的な対処ではなく持続可能な環境作りの手始めとして現状報告とニーズ把握を兼ねた内容にしました。岐阜県IYEO会員は内閣府の青年国際交流事業に参加後、地域開発・教育・福祉等で幅広く活躍しており、今回はその実践経験者が講師になりました。岐阜県社会福祉士会との協働研修会で40名、また小中高・大学の教員、日本語教員や国際交流協会、学生との集いで24名が参加し、予定時間を越えて真剣な意見交換が行われました。参加者の声から、生徒主体・多様性を尊重する教育の重要性やヒントを発見したようです。



岐阜県社会福祉士会との共催で開催したセミナー



会場では、IYEO写真パネル展示を行い、IYEOメンバーの和田さんの講義資料として、外国にルーツをもつ生徒が書いた夢や関心事をまとめた掲示物と一緒に掲示

## 沖縄県IYEO 移民ワークショップ

2022年10月15日(土)、宜野湾市民会館調理室にて「移民ワークショップ」を開催し、沖縄県IYEO会員、会員家族、一般の方など18名が参加しました。

沖縄県は過去1世紀にわたり世界中に多くの移民を送り出してきた県です。世界にはおよそ42万人の県系人がいると推定されています。これら先人たちは移住先での困難を乗り越え、海外においても社会の一員として受け入れられてきました。世界に広がるこのウチナーンチュ(沖縄の人)のネットワークをさらに発展させることを目的として1990年以来、「世界のウチナーンチュ大会」が概ね5年ごとに開催されてきました。本年は第7回大会が10月31日～11月3日に行われる



大会が10月31日～11月3日に行われる

のに先立ち、沖縄県IYEOは「移民ワークショップ」を実施しました。このワークショップでは、ペルーに移住経験のある沖縄ペルー協会の古謝盛裕会長をゲストとして招き、移民の実体験を話していただきました。そして、沖縄県の移民の歴史を通じて、多文化共生や異文化理解の促進を図りました。また、ペルー料理の調理会も開かれ、料理を通じてペルーの文化を学ぶこともできました。



# 【IYEOの活動】 IYEOキャリアデザインセミナー

IYEOでは、2019年度から事後活動研修制度を施行し、事後活動研修として、ブロックイベントや全国大会に参加することを通して、人材育成を促してきました。2022年から、更に人材開発を強化すべく、新たな「IYEOキャリアデザインセミナー」をスタートしました。

## 内閣府事業に参加した後、「何か社会に貢献したい！」 そんな想いを実現していく場所

「IYEOキャリアデザインセミナー」は、自分を知るところを起点として、自分がいる社会状況を理解し、その中で自分ができることを考えて自発的に活動を起こしていくことを促す「自分軸」の研修です。

「これから社会に変化を起こしてみたい!!」「でもどこからスタートしたらいいの?」「選択肢が多くて、何を選べばいいのかわからない」という思いに寄り添い、自分がやりたいことや自分について知る機会を提供し、理想の実現に向けて少しでも貢献できるよう、仲間と共に成長・発達していける全6回のセミナーを開催しています。

### セミナースケジュール

Seminar 1	5月21日(土)	9:30～11:30	「自分の強み、傾向を知る・自分と周りの人の違いに気づく」
Seminar 2	6月25日(土)	9:30～11:30	「自分の未来を思い描く」
Seminar 3	7月23日(土)	9:30～11:30	「自分の強みを活かす場と方法を知る」
Seminar 4	9月17日(土)	9:30～11:30	「IYEOでできそうなことを考える」
Seminar 5	11月19日(土)	9:30～11:30	「実践事例や思いを発表する」
Seminar 6	2月25日(土)	17:00～18:00	全国推進会議での成果発表(予定)

### 2022年度のセミナーについて

2019～2021年度の内閣府青年国際交流事業既参加青年14名が参加し、5月にセミナーがスタートしました。

セミナー前半では、コミュニケーションカードを使つてのワークショップなどを通して、自己理解を深め、自分の現状や未来について参加者がそれぞれに向き合い、グループで共有することで理解を深めました。

次に、自分の強みを活かす場や方法として、IYEO自体の説明や活動事例などを紹介。少人数のグループに分かれ、IYEO会員であるオーガナイザーがIYEOの組織や活動に関する疑問に答え、セミナー参加者にもIYEOでやってみたいことについて考えてみる機会となりました。

同時に、セミナー参加者が関心のある分野や社会貢献として取り組みたいことを実際に活動しているIYEOの各組織や会員と繋ぐことも実施し、セミナーで学んだことや感じたものを行動に移せる場を提案しています。参加者それぞれに寄り添いながら、IYEOでの活動に伴走していくことで、セミナー終了後の次のステップに繋がるのがキャリアデザインセミナーのゴールです。



IYEO  
キャリアデザインセミナー

### 参加者の声

- ・社会貢献といまの仕事をつなげるための具体的なアクションが少し見えた。
- ・コロナ禍において、活動を開始する際の仲間探しや仲間集めの大変さを改めて実感しました。
- ・ワークを通して将来像や今後やりたいことが整理され、自分の進む道が一つずつ見えてきました。

## あなたは、仕事以外で、何か社会に貢献したいと思ったことはありますか？

内閣府青年国際交流事業に参加して、その経験を何か社会に活かしたい。でも、今の仕事とはあまり関係ないし、自分一人ですることじゃない。そんなとき、IYEOでは、ボランティア活動を通して、仲間を作ってあなたのやりたい活動が実現できるかもしれません。

IYEOの持つ全国・海外の会員ネットワークで、都道府県や参加事業の枠を超えて、IYEOが貢献できる未来は何か？それを議論するために、2021年に「IYEO未来創造会議」が創設されました。

## IYEOのより良い未来を考えるきっかけづくりをする会議が「IYEO未来創造会議」です。

2022年3月に始まった2年目となる「IYEO未来創造会議2022」には、熱意あふれる若手会員14名が集まりました。IYEO自体や各種スキルの学習から始まり、5月にはIYEO全体で取り組みたい3つの未来創造テーマが生まれました。そして、2022年8月、2027年という未来に向けてIYEO活動のあるべき姿を提言する「IYEO未来創造計画2027」を作り上げました。

**2022年1月、未来のIYEO運営を担う若手会員を募集したところ、日本の各地域から14名が集まりました。**

所属ブロック別内訳		出身事業別内訳	
所属ブロック	人数	出身事業	人数
北海道・東北	1名	東南アジア青年の船	5名
関東	2名	世界青年の船	5名
北関東	1名	国際青年育成	0名
東海	3名	日中親善交流	0名
近畿	3名	日韓親善交流	2名
中国	2名	地域コアリーダー	0名
四国	0名	参加事業なし <small>(その他)</small>	2名
九州	2名	計	14名
計	14名		



IYEO未来創造会議

全国から集まった未来創造会議2022メンバー

**若手の意見から、IYEO全体で取り組みたい3つの未来創造テーマが生まれました。**

- ①「医療×多文化共生プロジェクト」  
IYEO 全体で、多文化共生促進の場を作りたい！
- ②「キャリア教育プロジェクト」  
IYEO 全体で、世代を超えた教育・成長の場を作りたい！
- ③「IYEO広報誌プロジェクト」  
IYEO 広報誌の在り方を考えたい！

未来創造会議2022から生まれた活動テーマ

## 少しずつ変わり始めた未来

未来創造計画2027で提言した「IYEOで実現したい未来」への第1歩が既に始まっています。

<始まった新たな活動例(2022年12月現在)>

- ・ココキャリアイベント開催
- ・Humanoリニューアル

<未来創造会議2021～継続した活動例>

- ・IYEO版人生ゲーム～内閣府事業が最高のキャリア教育～(キャリア教育プロジェクト)

※詳細や最新情報は、未来創造会議ウェブサイトや未来創造計画をご覧ください。 <https://sites.google.com/view/ieeofuturecreationforum>



## IYEOでなら、あなたのペースで、少しずつ社会に貢献できるかもしれない。

未来創造会議の活動・運営がきっかけで、未来創造計画2025完成から4か月後の2021年12月、IYEOの全国47都道府県の役員が集まる全国推進会議で、IYEOの活動に、都道府県軸、出身事業軸に加えて第3の軸「社会貢献軸」を組織として新たに設けることが決定しました。

また、内閣府の各青年国際交流事業の事前研修・事後研修と連携し、内閣府の青年国際交流事業に参加する青年に、事業参加中から「事業終了後に、この経験をどう社会還元していくか」を考えてもらう、「段階的人材育成」の取組を未来創造会議メンバーが始めました。

IYEOは参加する側も運営する側もボランティア。一般法人や企業ほど一度のインパクトは大きくないかもしれませんが、型にはまらない分、気持ちと仲間次第で、未来を少しずつ変えることができます。

未来創造会議はまだ始まったばかりの取組ですが、新設の「社会貢献軸」組織と共に、IYEO事後活動の新たな地平を開いていく予定です。

## ■「国際社会青年育成事業」と「地域コアリーダープログラム」

12月22日、第40回の「NPO対話会」が開催されました。これは2019年度まで開催されていた「地域コアリーダー育成プログラム」の一部である「NPOマネジメントフォーラム」に運営委員として携わっていた方々を中心に、事業がなくなった後もNPOに関する集いを開催したいと発足しました。社会課題や人々の内面に関する対話を行っています。対面で15名、オンラインで7名が集まり、今年度の育成事業参加者も2名対面で参加しました。



## ■中国派遣団同窓会

2023年1月14日（土）、中国文化センターにて中国派遣団同窓会総会が開催されました。今年度は2019年度（第41回）の派遣団が幹事役となり、「新世代へのバトンタッチ」をテーマにハイブリッド形式で実施されました。会場には31名、オンラインには9名が出席し、事業参加から10年程度が経過した既参加青年2名による「中国派遣とキャリア」と題した講演や、クイズ大会、事業参加と自身のキャリアについて振り返るディスカッション、令和4年度オンライン事業参加青年による事業参加報告など盛りだくさんの内容でした。



## ■日韓交流連絡会議

「日本・韓国青年親善交流」事業の参加青年等による第19回「日韓交流連絡会議」は2023年夏頃、ソウルにて開催の予定です。

## ■「東南アジア青年の船」事業

12月17日、東京都江東区の門前仲町のイベント会場HYPERMIXにて「東南アジア青年の船」事業同窓会を「Once a PY, Forever a PY」というテーマのもと開催しました。参加年度を超え、コロナで一時止まってしまった事業とのつながりをreconnectしようと1975年の第2回事業参加の大先輩からフレッシュな今年度のオンライン事業の参加者まで計80名（子ども含む）が集まりました。また、現在DariK代表取締役である、2001年／2009年度事業既参加青年の吉野慶一さんから、抹茶トリュフの協賛品をいただき、活躍する既参加青年とのつながりを感じることができたと同時に、幹事一同この場での出会いが、今後の何かのつながりになることを期待しています。



## ■「世界青年の船」事業

「世界青年の船」事業の同窓会「SWY Connect! 2022」を開催しました。10月下旬に東京都品川にて、数年ぶりに対面形式で開催し、1991年度～今年度参加青年まで、約150名の幅広い代の方々に参加いただきました。今年の同窓会は「つながりをつくる・深める」ことを目的とし、懐かしい再会はもちろんのこと、世代を超えたつながりを作ることのできる、アクティビティ&ワークショップや懇親会を実施し、盛況のうちに終えることができました。





## ■第4回「世界青年の船」事業30周年記念

「お祝いしよう！」マドリードでの20周年記念リユニオン幹事のEmeさんから2021年11月にメッセージが入り、みんなで企画を持ち寄ることになりました。Hebaさんからエジプト団のホストでリユニオン開催の提案がありました。ハイライトと言えるエジプトでのリユニオンは約1年計画で実施。既参加青年6か国25名に家族も加わって36名が集まり、30周年をお祝いしました。コロナ下、残念ながら日本から実際の参加はかないませんでした。オンラインで実現することができました。2種類の記念ロゴマークもでき、エジプトでは、お揃いのTシャツや旗など（オマーンSharifさん、トルコOyaさんの提案、エジプトAmrさん発注）を作成し、お祝いムードを盛り上げました。日本では2023年1月に富山でプチリユニオンを開催しました。

様々な事業を通じ、絆を確認でき、貴重な1年でした。



## ■SSEAYPインターナショナル・フィリピン（「東南アジア青年の船」事業フィリピン事後活動組織）の活動

2022年10月27日にフィリピンの東の海上で発生した台風第22号（アジア名：ナルガエ（Nalgae））は、10月29日にフィリピンに上陸し、フィリピン全土に甚大な被害をもたらしました。これを受け、SSEAYPインターナショナル・フィリピンでは、特に被害の大きかった、南ラナオ州マラウィ市、マギンダナオ州、アンティーケ州、ミンドロ島、カビテ州ノヴェレタにおいて、各地の団体と既参加青年が協力して、復興支援活動に取り組みました。この復興支援活動に対して、SSEAYPインターナショナル（SI）大規模災害支援積立金\*から、USD1,000を拠出しました。

### 【被災地に提供した主なもの】

- ・ 学校用学習机（12クラス60名分）
- ・ 簡易テント（24世帯分）
- ・ 復興支援品（150世帯分）
- ・ 食料品詰め合わせ（33セット）、等



### \*SSEAYPインターナショナル（SI）大規模災害支援積立金

SI大規模災害支援積立金は、SI構成員が行う大規模災害復興支援活動に対して、SIから迅速な支援が行えるよう、2015年から運用されています。これまでに、2016年の熊本地震や2018年の西日本豪雨の際にIYEOが行った復興支援活動を含む、合計7件の復興支援活動に対して支援を行っています。

### 内閣府青年国際交流事業

くわしくはこちら URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

内閣府青年国際交流

検索



### 内閣府青年国際交流事業 事後活動ニュース FY2022

発行日：2023年2月28日

発行：内閣府青年国際交流担当室

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館8階

TEL: 03-6257-1434 FAX: 03-3581-1609 URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集：一般財団法人青少年国際交流推進センター（Center for International Youth Exchange）URL: <http://www.centerye.org/>

編集協力：日本青年国際交流機構 International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) URL: <https://www.iyeo.or.jp/ja/>